

とがち高等教育推進まちづくり会議

企画・事業部会検討状況報告

I 検討のねらいと経過

(1) まちづくり会議の基本方向

帯広畜産大学を核に、多様な連携・交流のもと、教育と産業、まちづくりが連動した取り組みを通じ、地域ぐるみの人材育成、人材活躍の場・環境づくり、高等教育機関の充実など、十勝型知と技術の拠点形成を進める。

(2) 部会の経過

地域ぐるみの人材育成について、「稼ぐ力」の向上と地域産業全体への波及・拡大の視点から、以下の方向で検討を実施

- ① 地域を取り巻く環境を踏まえ、十勝の持続的発展につなげる観点から、**地域発展に特に重要な人材像**を議論
- ② 人材像と実施中の人材育成事業を比較し、望ましい人材育成プラン・プログラムについて議論し、**短期的な取組項目と中長期的な検討項目**を整理

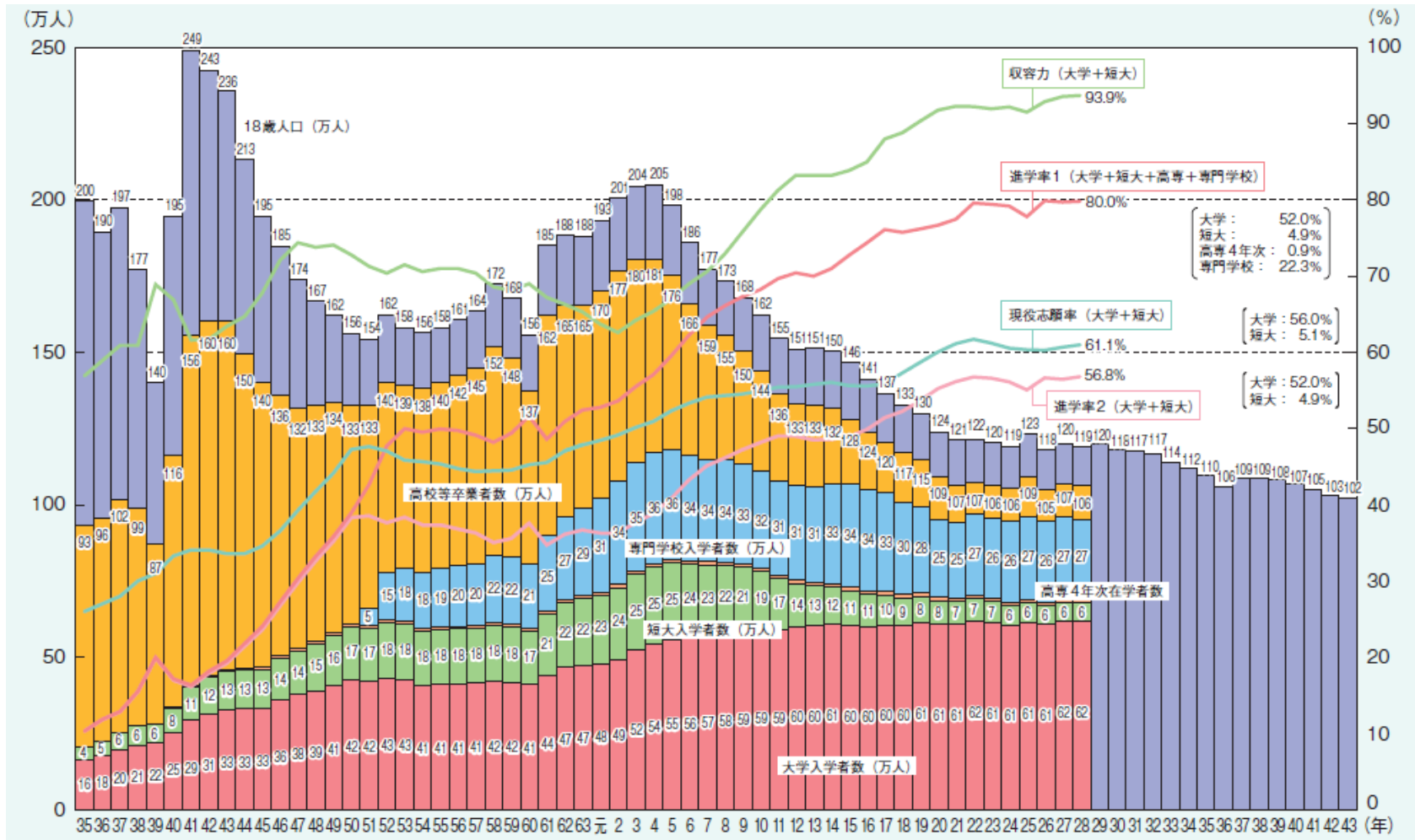
- 平成27年度（2回開催） 今後の基本的考え方、地域における人材育成の現状
- 平成28年度（4回開催） 地域発展に特に重要な人材像
- 平成29年度（6回開催） 今後の取り組みの方向性

※検討の参考とするため、経営者ヒアリング、帯広畜産大学の取組紹介、先進地視察・講師招聘等を実施

Ⅱ 高等教育の現状

(1) 18歳人口の推移

18歳人口はH4の205万人からH29の120万人まで低下した一方、高等教育機関への進学率は80%まで上昇

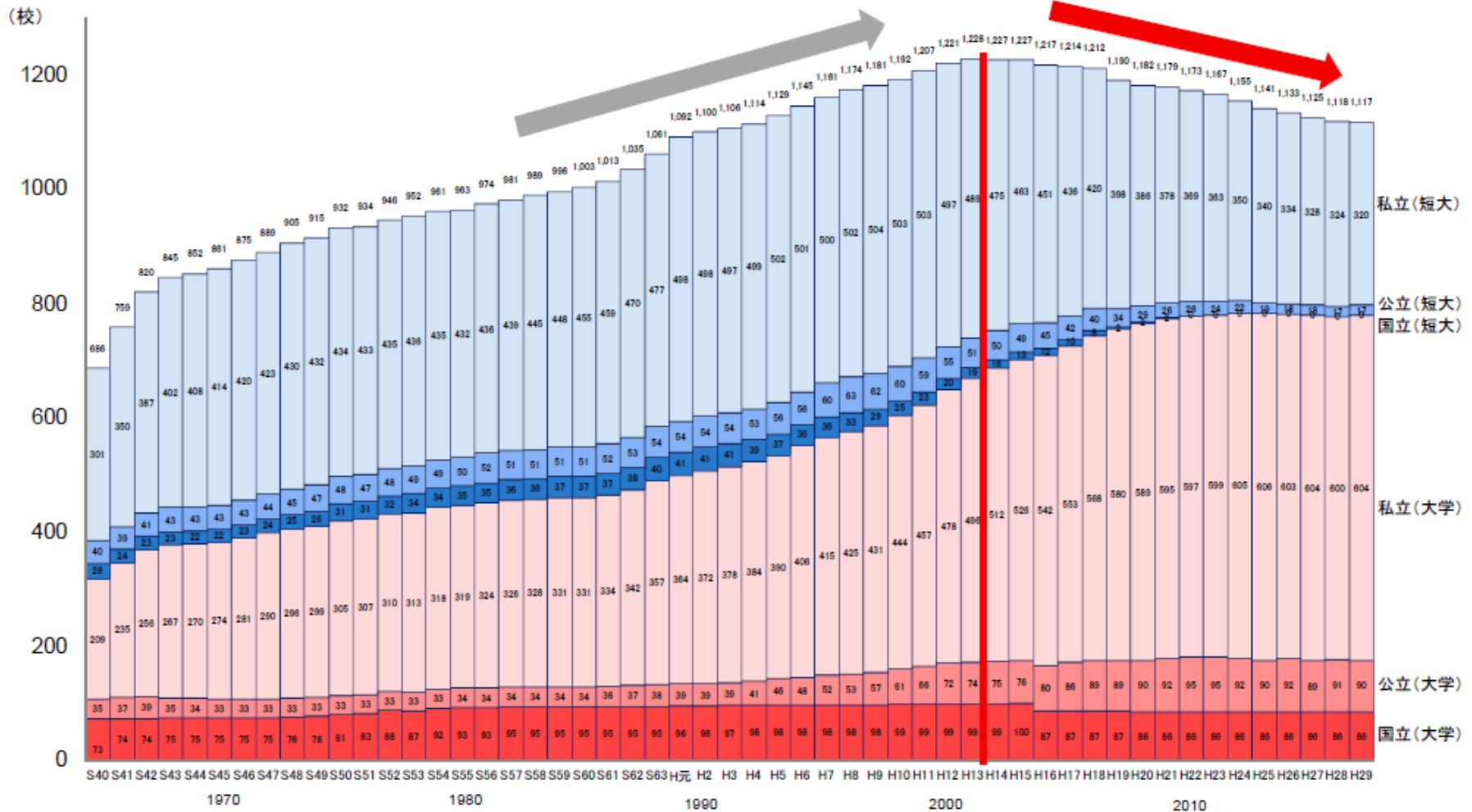


出典) 平成28年度文部科学白書

Ⅱ 高等教育の現状

(2) 大学・短大数の推移

四大化や廃止により短大数は減少。H14年以降は四大・短大合計数も減少。国立大学数は平成16年以降減少。



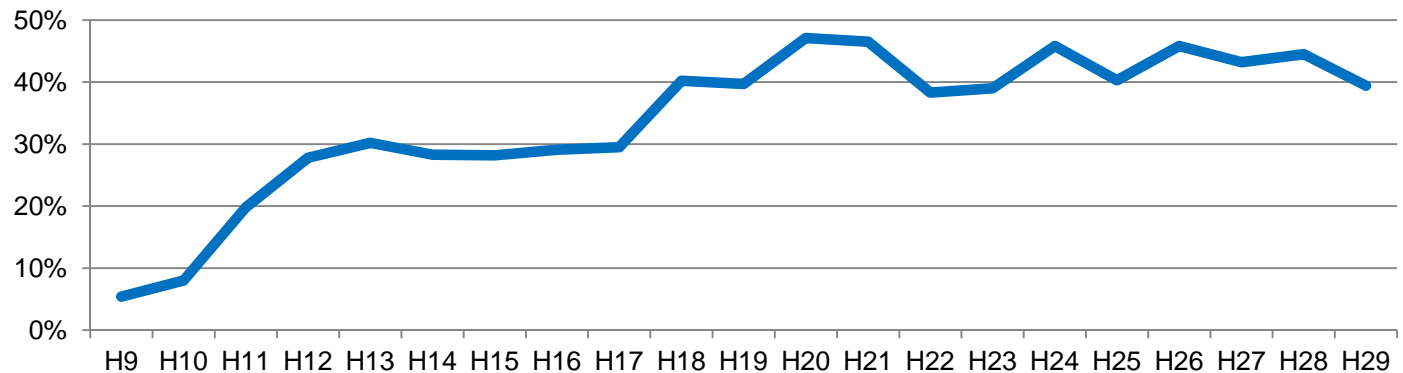
出典) 中央教育審議会資料

Ⅱ 高等教育の現状

(3) 私立大学の経営環境

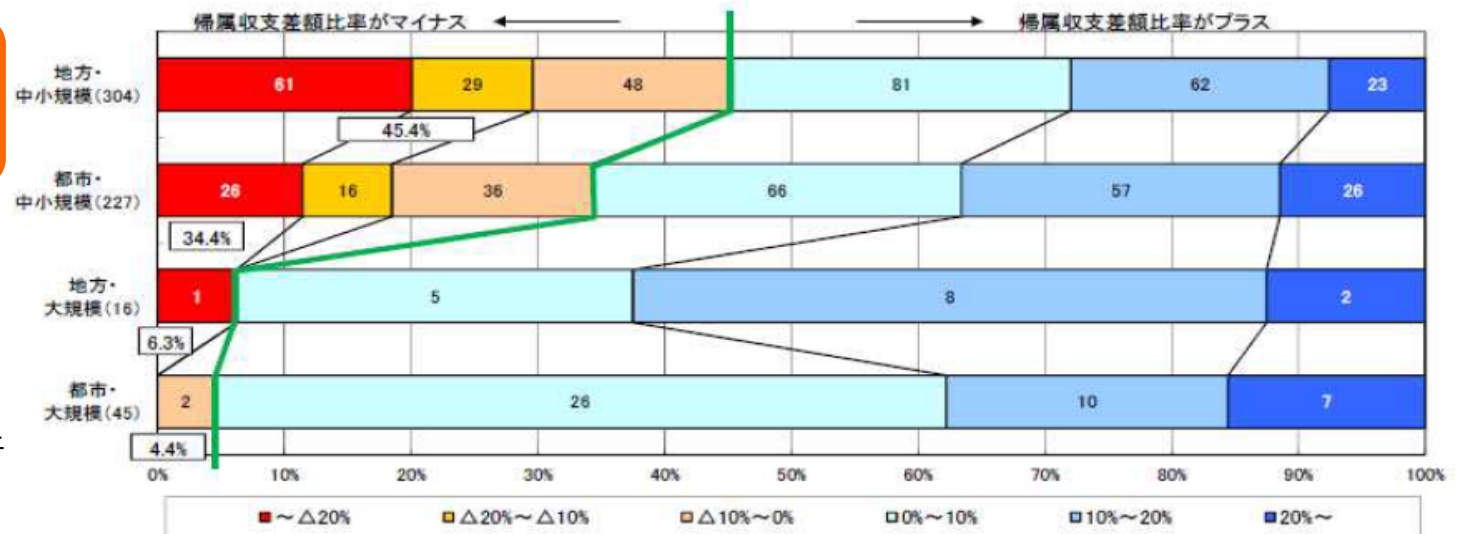
私大の約4割が入学定員未充足。帰属収支差額比率がマイナスとなっている私大の割合は中小・地方で高い。

入学定員
未充足校の割合



帰属収支差額
比率の分布
(H27)

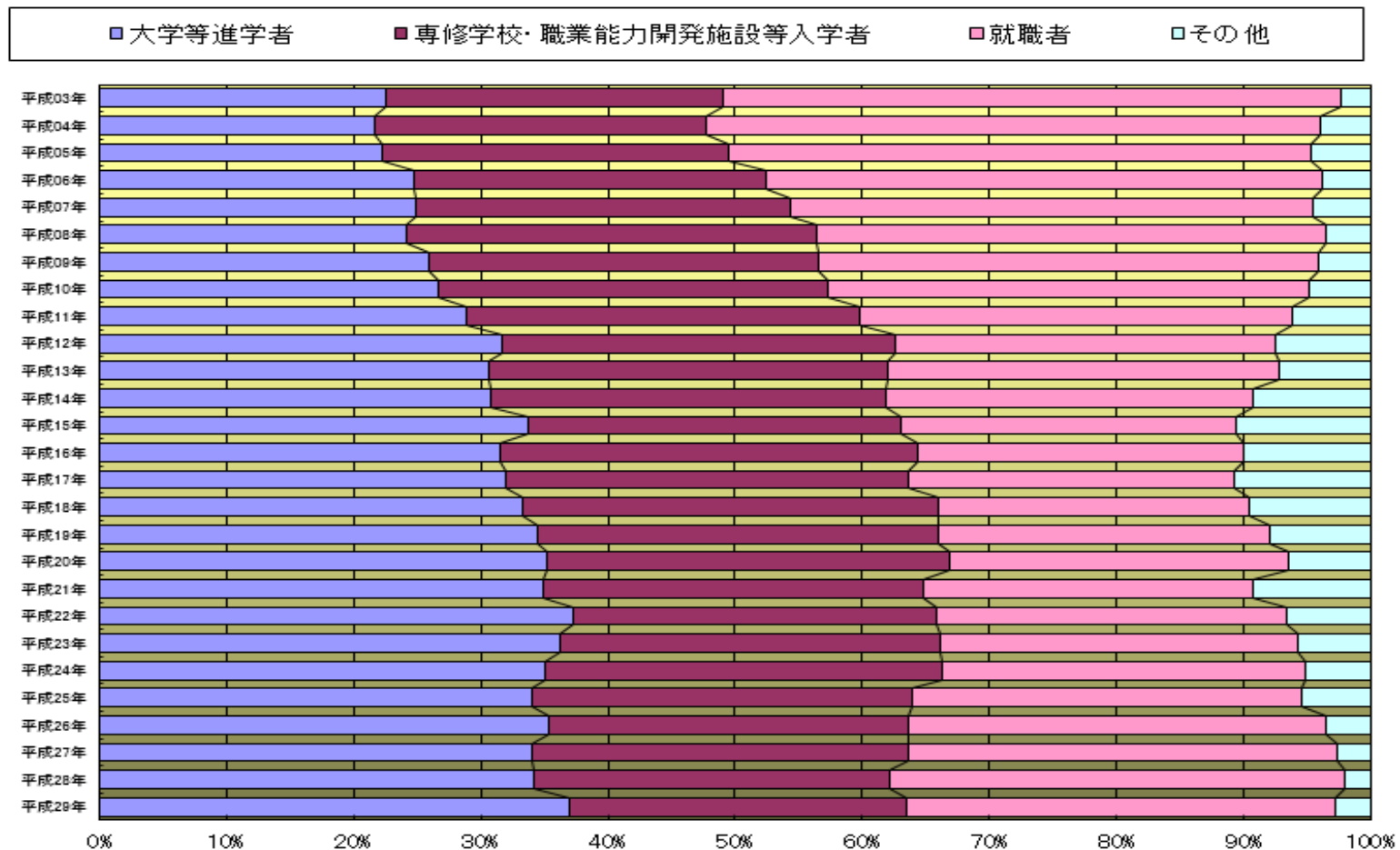
- 帰属収支差額
学生納付金、寄附金等の自己収入から、人件費、教育研究経費等の支出(減価償却費、退職給与引当金等現金支出を伴わないものを含む)を差し引いたもの。
- 都市: 政令市、東京都
- 大規模: 在籍学生数8,000人以上



Ⅱ 高等教育の現状

(4) 十勝の現状

大学・短大への進学率（現役）は**37.0%**（H29）。収容率は**11.3%**（H27）で道内6圏域で最低。



注)収容率は、管内大学・短大入学者数を管内18歳人口で除した比率

出典)北海道十勝総合振興局ホームページ

Ⅱ 高等教育機関の現状

(5) 国の高等教育政策の動向 ① 専門職大学等の制度化

専門性が求められる職業を担うための**実践的かつ応用的な能力を展開**させることを目的に、専門職大学、専門職短期大学、専門職学部及び専門職学科の制度が創設（平成31年4月1日施行）

◆ 制度の概要

- ・実務家教員の任用（専任教員数の概ね4割以上、概ね5年以上の実務経験）
- ・実習等の強化（卒業要件124単位以上のうち、実験・実習・実技40単位以上、企業等での実習20単位以上）
- ・産業界・地域社会と連携した教育課程の編成・実施（教育課程連携協議会の設置）
- ・専門職大学（4年制）の課程は、前期（2年又は3年）及び後期（2年又は1年）に区分可能
- ・実務経験を通じた実践的能力を勘案（修業年限への通算、単位認定）

◆ 認可申請の状況（平成29年12月現在）

- ・専門職大学13校……医療福祉9校、ファッション1校、先端情報・デザイン等1校、食・美容1校、調理・栄養1校
- ・専門職短期大学3校……動物看護1校、歯科衛生1校、調理（食育）1校

農業大学校の専門職大学への移行

- 「農業競争力強化プログラム」に、農業大学校の専門職大学への移行を推進することが記載
- 全国の農業大学校（42校）のうち、静岡県立農林大学校が平成32年4月開学を目指し検討中
- 北海道立農業大学校については、他県の動向等を見ながら、移行の必要性について今後検討

Ⅱ 高等教育機関の現状

(5) 国の高等教育政策の動向 ②地方創生に資する大学改革

地方の特色ある創生のための地方大学の振興などに関する有識者会議の提案を踏まえ、地方大学・地域産業創生交付金等が制度化

◆地方大学の振興に向けた有識者会議の提案（ポイント）

- ・首長のリーダーシップによる持続可能な連携体制（コンソーシアム）の構築
- ・地域の中核的な産業の振興やその専門人材育成などの振興計画の策定（優れた事業は新たな交付金で支援）
- ・東京圏と地方の大学の学生の対流・交流
- ・地方私立大学の改革の推進

※上記のほか、東京の大学の定員抑制、東京における大学の地方移転の促進（サテライトキャンパス）、地方における若者の雇用の創出（起業・創業の支援、UIJターンの促進など）についても記載

交付金の制度概要

- 国費7億円を原則5年間、全国で10件程度認定
- コーディネーター雇用、トップレベル人材招聘、研究環境整備、産学官連携、最先端研究などに活用
- 生産額、雇用者数、労働生産性、就職・起業数、大学組織改革などの目標設定が必須
- 交付金終了後の自立性、大学改革の実効性、事業の先進性・大規模性、地域産業への効果、企業との連携予定などを審査

Ⅱ 高等教育機関の現状

(5) 国の高等教育政策の動向 ③今後の高等教育の将来像の提示に向けた論点整理

「第4次産業革命」や「人生100年時代」などの産業・社会構造の変化や今後の人材育成の在り方などを踏まえ、中央教育審議会において、大学等の連携・統合や恒常的な連携体制の構築など、**これからの時代の高等教育の将来構想に関する論点整理を公表**

◆高等教育機関の教育研究体制

- ・学部等の組織の枠を超えた学位プログラムの実現
- ・大学等の連携・統合の可能性
- ・多様なバックグラウンドの教員の採用（実務経験のある教員、若手、女性など）
- ・複数の高等教育機関、産業界、地方公共団体との恒常的な連携体制の構築 など

◆18歳人口の減少を踏まえた大学の規模や地域配置

- ・「地域連携プラットフォーム」（仮称）の構築（将来像や具体的な交流等の方策につき議論） など

◆教育の質の保証と情報公開

- ・教育課程の改善、指導方法の改善
- ・学修成果の可視化と情報公開
- ・認証評価制度の在り方 など

Ⅲ 地域産業の現状

(1) 地域産業を取り巻く環境

◎強み:Strength

- ①豊かな自然と恵まれた地域資源
- ②農林水産業・関連産業の集積
- ③農畜産関連の教育・研究機関の存在

●弱み:Weakness

- ①付加価値の低さ
- ②創業・起業率の低さ
- ③マーケティング志向の弱さ

◎機会:Opportunity

- ①海外における食料需要の拡大・高度化
- ②訪日外国人の増加、東京五輪の開催
- ③農業の成長産業化への国の政策強化

●脅威:Threat

- ①国内外にわたる競争環境の激化
- ②人口減少、消費の縮小、担い手不足
- ③HACCP等、国際規格の義務化

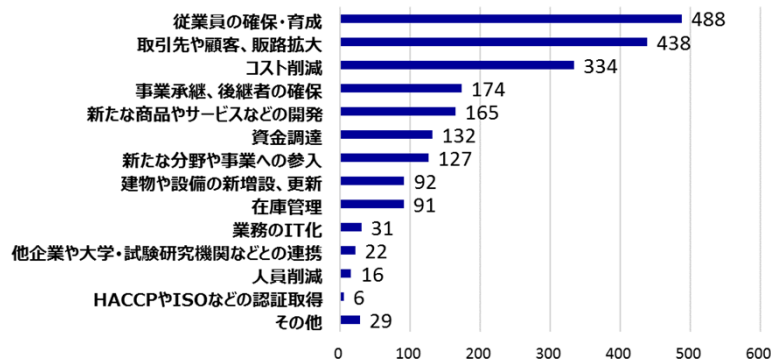
域外市場を一層意識しつつ、食の安全性や生産性の向上、高付加価値化、販路開拓などにより、地域の「稼ぐ力」を高め、地域産業全体に波及・拡大していくことが必要となっている。

Ⅲ 地域産業の現状

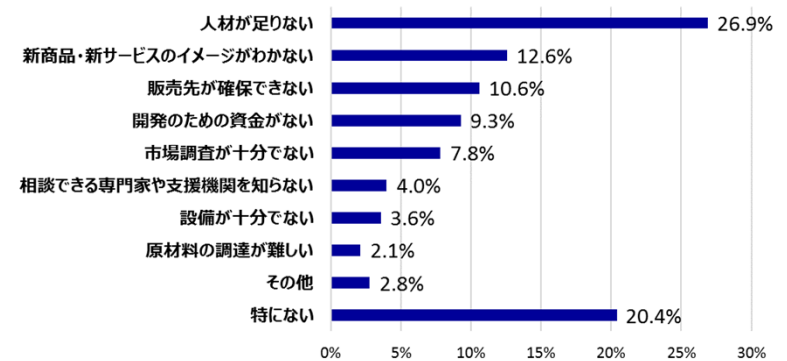
(2) 人材の確保・育成に関する課題 (平成25年度帯広市産業経済実態調査)

現場マネージャーや技術職などの確保・育成を望む一方、人手不足が顕著で適切な人材の発掘が難しい状況

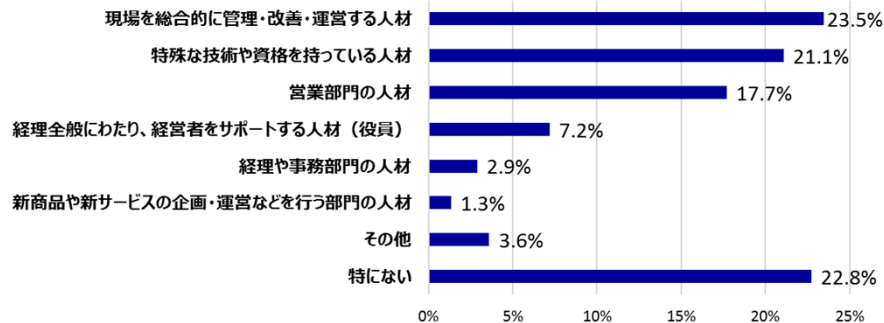
■ 優先して取り組みたいこと (複数回答)



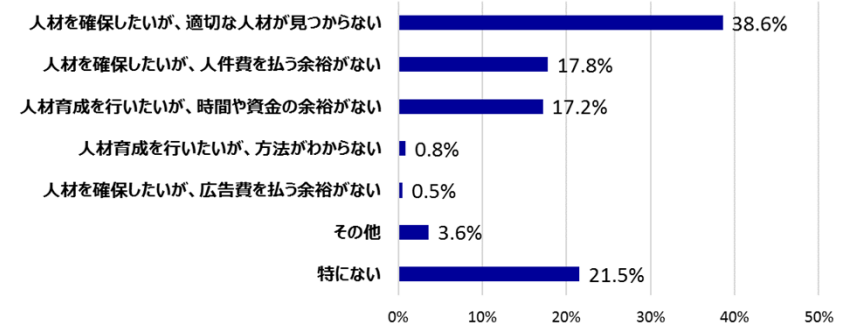
■ 新商品・サービス開発の課題



■ 最も必要としている人材



■ 人材確保・育成の課題



Ⅲ 地域産業の現状

(3) 部会での主な意見

新たな価値の創造が必要

- ・付加価値の低さ、創業・開業率の低さが課題。
- ・素材はあるが加工できる事業者が管内・道内に少なく、外部との連携が課題。

人材の定着に課題

- ・採用後すぐに辞める社員が多い。
- ・対人能力、忍耐力など、社会人としての基本的な能力が低下している。

担い手不足が深刻化

- ・酪農の担い手が不足し生乳量が減少しており、乳業メーカーに危機感。
- ・企業が外部の研修機会に人材を派遣し、しっかり育てようという傾向が強い。
- ・技術習得や食品成分分析のニーズはあるが、企業側で機材や人員が不足。

基礎的・汎用的能力が重要

- ・社会人としての基礎的能力や共同で何かを成し遂げる力が求められている。
- ・総合的な人間力、主体的に考える力を養うことが重要。
- ・経営や企画、コミュニケーションに関する能力を育成する必要がある。

経営者の育成・マーケティング・安全管理が重要

- ・将来を担う経営者の育成という視点が重要ではないか。
- ・マーケティングのスキルが不足。支援機関のノウハウも十分でない。
- ・HACCPやGAPの導入・構築・認証を全て行える人材が必要。

全体を見る能力が重要

- ・全体を俯瞰し、コーディネートできる人材が求められる。
- ・技術と経営の両方を的確に捉えられる人材が必要ではないか。

Ⅲ 地域産業の現状

(4) 経営者ヒアリング

- 趣 旨 「稼ぐ力」の拡大に資する人材に必要な知識・能力等について、実践例となる地域経営者等の考えを聴取
- 時 期 平成29年2月～11月
- 対 象 管内の経営者等 14名（農業2名、製造業2名、卸売業4名、小売業4名、サービス業2名）

- ◆**経営戦略** 中核事業を維持・拡大しつつ、大手と異なる戦略で**新たな価値を創出し**、企業の成長を目指している。生産・加工への進出や川上・川下との連携、生産性向上のための技術導入、ブランド化、海外展開など。
- ◆**中核人材** **次世代の経営幹部として30代などの若手を中心に育成**。人間力やコミュニケーションなどを基盤に、財務、人事労務等を含む**総合的な能力育成**を目指している。専門スキルとしては、**営業・開発・マーケティング**や**創造性**を重視する傾向。**食品安全管理や海外展開、ICT導入等**にも強い関心。
- ◆**育成方策** 経営コンサルなどを積極的に活用しつつ、社内研修やOJTにより**実践力の育成を重視**。自社の理念浸透や早期の権限委譲、成功事例の共有、地域理解の促進などの事例も。一方、人材不足が深刻化する中、**育成に係る時間的制約や指導者確保**などが課題。
- ◆**外部人材** 社内で不足するスキルは外部との連携などで対応。中途採用も目指すが困難が大きい。**商品開発、マーケティング**のほか、ICT、食品安全管理、法務などのニーズが見られる。また、新たな気づきや課題解決の上で、外部との人的なネットワークを強く意識。
- ◆**その他** 大学に対し、**食に関するエキスパートの輩出や現場と連携した実践的な教育を期待**する意見あり。食文化の形成や規制緩和についての意見も。

IV 取り組みの方向性

(1) 地域発展に特に重要な人材像

地域資源を活かした新たな価値の創造に中核的な役割を担う
経営者・経営幹部などのリーダー人材



技術・技能

(研究開発、栽培・飼育、製造、品質管理、衛生管理、ICTなど)

ビジネス・経営スキル

(財務、労務、営業、マーケティング、リスク管理、マネジメントなど)

創造性

(課題発見、コンセプト作成、試作・試行 など)

全体を俯瞰する能力

(人的ネットワークの形成、コーディネート能力など)

社会人としての基礎力

(コミュニケーション、思考力、企画力、人間的な魅力など)

IV 取り組みの方向性

(2) 地域における人材育成事業の現状

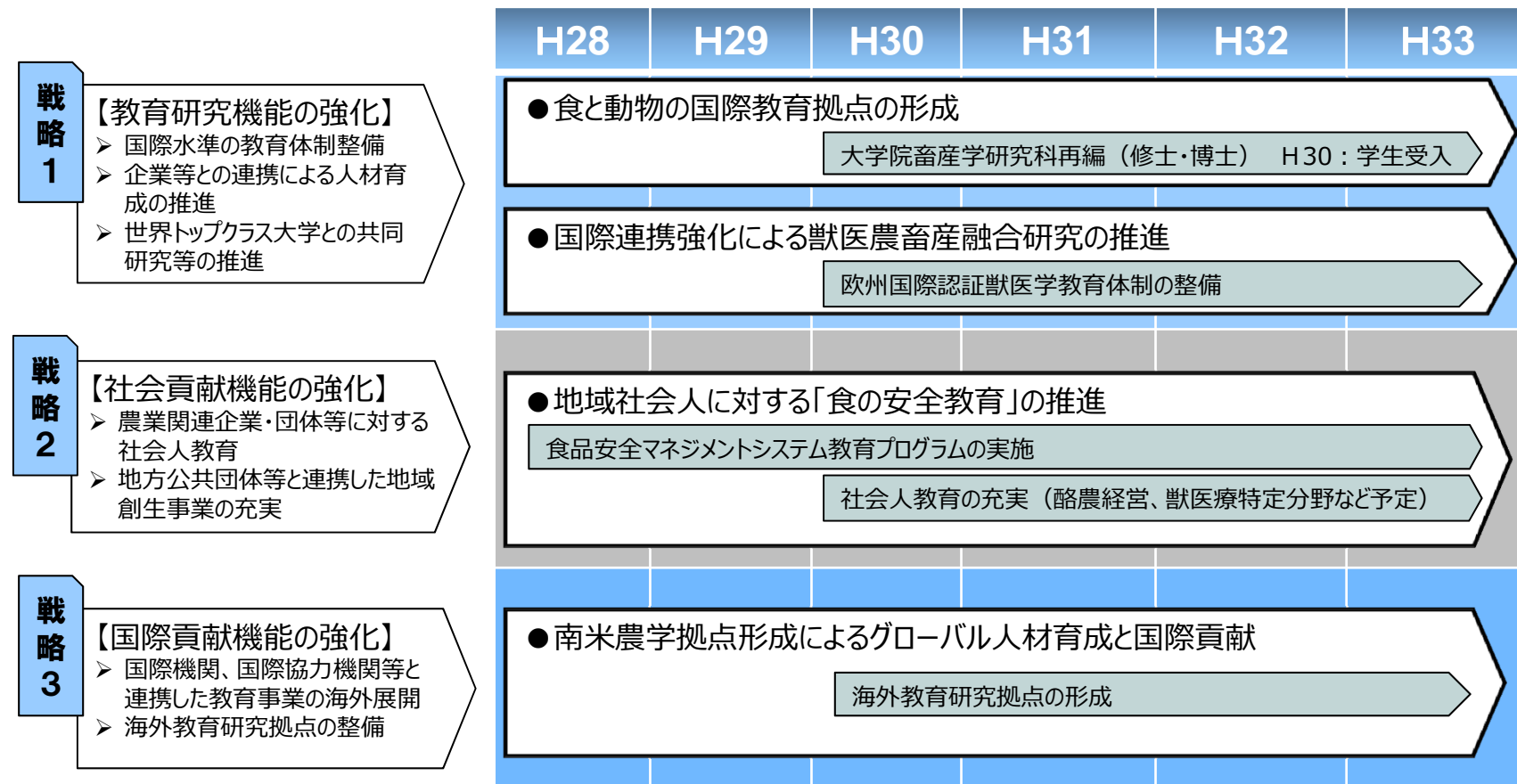
大学との関係で見ると、技術・技能分野に強み、ビジネス・経営スキルや創造性等の分野は今後の伸びしろ

育成する能力	事業名等	初級	中級	上級	主な実施機関
技術・技能	獣医学教育（学部、大学院）	●	●	●	帯広畜産大学
	生産獣医療技術研修（基礎コース・発展コース）		●	●	帯広畜産大学
	農業大学校（養成課程、研究課程）	●	●		農業大学校
	別科（草地畜産専修）	●	●		帯広畜産大学
	畜産学教育（学部、大学院）	●	●	●	帯広畜産大学
	アグリカレッジ	●			十勝中部地区農業推進会議
	フードバレーとかわち人材育成事業（農業生産者コース）	●	●		帯広市、帯広畜産大学
	よつ葉乳業ディリースクール		●	●	よつ葉乳業、帯広畜産大学
	農業生産・技術指導全般	●	●	●	中央会、農協、農協連
	フードバレーとかわち人材育成事業（食品安全管理）	●	●		帯広市、帯広畜産大学
	HACCP関連人材育成		●	●	帯広畜産大学、とかわち財団
	食品加工人材育成・研究開発支援	●	●	●	とかわち財団
	工業関連人材育成・研究開発支援	●	●	●	とかわち財団
研究開発（新品種育成、栽培技術開発など）			●	農研機構	
ビジネス・経営スキル	農業経済学教育（学部、大学院）	●	●	●	帯広畜産大学
	経営力向上セミナー	●	●	●	帯広商工会議所
	フードバレーとかわち人材育成事業（ビジネスコース）	●	●		帯広市、帯広畜産大学
	中堅幹部学校 他	●	●	●	北海道中小企業家同友会とかわち支部
	おびしん地域経営塾		●	●	帯広信用金庫
	貿易実務セミナー		●	●	帯広信用金庫
創造性	創業支援セミナー	●	●	●	帯広商工会議所
	Step Up Next	●			帯広市
	とかわち若者ラボ	●	●		帯広青年会議所
	とかわち・イノベーション・プログラム	●	●		帯広信用金庫、帯広市他
	十勝人チャレンジ支援事業		●		帯広市
	トカチコネクション		●	●	とかわち財団・帯広市他
社会人としての基礎力	新入社員研修会	●			北海道中小企業家同友会とかわち支部
全体を俯瞰する能力	-	-	-	-	

IV 取り組みの方向性

(3) 帯広畜産大学における重点的取組

地域産業と関わりが深い獣医や食品安全等の分野で、専門人材育成の取り組みを重点的に推進



IV 取り組みの方向性

(4) 基本的な考え方

■ 短期的な取組項目（強みを活かす）

人材像に掲げたスキルのうち主に「技術・技能」に関わり、**帯広畜産大学が全国トップクラスの強みを持ち、かつ、現場における人材不足が顕著な食品安全及び獣医分野について、産学官連携により高度専門人材を養成**し、十勝の食の安全性や生産性の向上などにつなげる。

◇食品安全管理のスペシャリスト養成

◇地域連携による国際水準の獣医師養成

■ 中長期的な検討項目（伸びしろを伸ばす）

人材像に掲げたスキルのうち主に「ビジネス・経営スキル」「創造性」「全体を俯瞰する能力」に関わり、**帯広畜産大学における農業経営教育のあり方検討と連動し、関係機関のノウハウや豊富なフィールドを活かした食・農分野の高度なマネジメント人材養成について検討**を進める。

◇アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成

IV 取り組みの方向性

(5) 短期的な取組項目 ① 食品安全管理のスペシャリスト養成

現状と課題

- HACCPに関する**正しい認識・理解が不足**（難しい、お金がかかる、義務化除外への期待 など）
- HACCPによる食品衛生管理が義務化の予定だが、**膨大な数の事業所が未対応**
【管内】A基準（製造業等）適合35件／2,019件、B基準（小規模事業者等）適合0件／10,126件
- 大手との取引や海外輸出には義務化対応にとどまらず、ISO22000等の**認証取得が必要**
- 食品安全管理システムの構築・運用に必要な**専門人材が不足**
- 専門人材を育成する**指導者・支援者が不足**しているほか、地域における**推進体制が未確立**

取組状況

<ISO22000の体系（1～3省略）>

- 4 食品安全マネジメントシステム
- 5 経営者の責任
- 6 資源の運用管理

7 安全な製品の計画及び実現

- 8 食品安全マネジメントシステムの
妥当性確認、検証及び改善

★**必須とされている「食品安全チーム
リーダー」（現場マネージャークラス）
の養成に向けた取り組みが未実施**

- ◆5Sセミナー
- ◆前提条件プログラム研修
- ◆HACCPシステム構築研修（大学院）
- ◆HACCPシステム構築3日間研修（社会人）
- ◆HACCPシステムと施設・設備の保守点検（社会人）
- ◆ISO22000内部監査員研修（社会人）

教育訓練



認証取得施設を活用した
実践的な教育訓練

個別支援

- ◆HACCPシステム構築支援 **14件**
- ◆食品安全マネジメントシステム
認証取得支援 **15件**
- ◆内部監査支援 **5件**
- ◆技術相談 **43件**
- ◆講演対応 **16件**
- ◆共同研究 **6件**
(平成26年度～平成29年度)

★**今後の支援ニーズの増大に対応
するには、地域を挙げた推進体制
が必要**

IV 取り組みの方向性

(5) 短期的な取組項目 ① 食品安全管理のスペシャリスト養成

取組方向

推進体制を別途構築して以下の取り組みを進め、**随時、部会に状況を報告し、課題等を協議**する。

HACCP義務化への対応

業界団体やリーダー企業への指導・助言等を通じた段階的な普及を促進する。
■ 3日間研修の継続実施 ■ 業界団体等の支援（リーダー企業育成等）
■ 自習教材の作成 など

各企業の専門人材の育成

ISO22000などの認証取得と継続的な運用・改善を支援する。
■ 個別支援の重点的实施 ■ 食品安全チームリーダー育成プログラムの構築
■ 専門人材ネットワークの形成 など

指導者・支援者の育成

帯広畜産大学・とち財団を核に、地域の実情に合った指導・支援体制を強化する。
■ 外部研修の活用によるスキル向上
■ 事業者支援を通じた指導者・支援者の実地訓練
■ 専門人材活用の仕組みづくり（企業間の相互内部監査等） など

地域の推進体制の構築

取り組みを総合的に進める推進体制を構築するほか、域外との連携を進める。
■ （仮称）十勝HACCP支援チームの設置検討
■ コンサルティング・審査・研究機能の整備に向けた検討 など

IV 取り組みの方向性

(6) 短期的な取組項目 ②地域連携による国際水準の獣医師養成

現状と課題

- 畜産物の安全安心の確保や人畜共通感染症への対策など、獣医師の役割は高度化・多様化
- 高度な実践力養成や獣医師の国際的通用性確保などのため、**獣医学教育の国際水準化**が必要
- 産業動物獣医師や公務員獣医師が不足**し、地域間で偏在も

【卒業後の進路（全国、文部科学省調べ）】

H元：公務員獣医師273名、産業動物獣医師111名、小動物獣医師282名、その他253名

H26：公務員獣医師197名、産業動物獣医師 82名、小動物獣医師392名、その他161名

取組状況

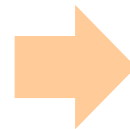
共同獣医学課程(H24～)

帯広畜産大学

(産業動物等に強み)

北海道大学

(伴侶動物等に強み)



獣医学教育国際認証の推進(H25～)

(帯広畜産大学・北海道大学、山口大学・鹿児島大学)

- 産業動物臨床施設の整備
- 米国コーネル大学との連携
- カリキュラムの強化
- 教員体制の整備 など

【学外実習の実施状況】

- 帯広保健所
- 保護動物保管施設
- 十勝農協連化成事業所
- 北海道畜産公社十勝工場
- 帯広川下水終末処理場
- 家畜保健衛生所
- 十勝NOSAI
- 十勝軽種馬農業協同組合
- JRA日高育成牧場
- 八千代公共育成牧場 など

★外部団体との連携、学外臨床実習・公衆衛生実習の充実などが改善点とされたほか、実習受入先に対する研修の必要性も指摘

IV 取り組みの方向性

(6) 短期的な取組項目 ②地域連携による国際水準の獣医師養成

取組方向

帯広市を窓口で大学と受入機関の橋渡しを進め、**随時、部会に状況を報告し、課題等を協議**する。受入機関等への研修や就業に向けた働きかけの強化については、学外実習の受入状況を見ながら、**段階的に検討**を進める。

学外実習の受け入れ拡大等

公衆衛生や産業動物などの分野を中心に、現場について理解を深める実践的な学習機会を提供する。

- 学外実習の受け入れ拡大
- 自習用画像の提供
- 地域人材の活用 など

受入機関等への研修

学外実習を効果的かつ円滑に実施するため、受入機関等を対象に、実習の趣旨・内容や指導上の留意点、評価方法等に関する研修会の開催について検討する。

就業に向けた働きかけの強化

就職セミナーやOB相談会の開催、各職場の魅力ややりがいについての情報提供の充実など、学生の地元就業に向けた働きかけの強化について検討する。

IV 取り組みの方向性

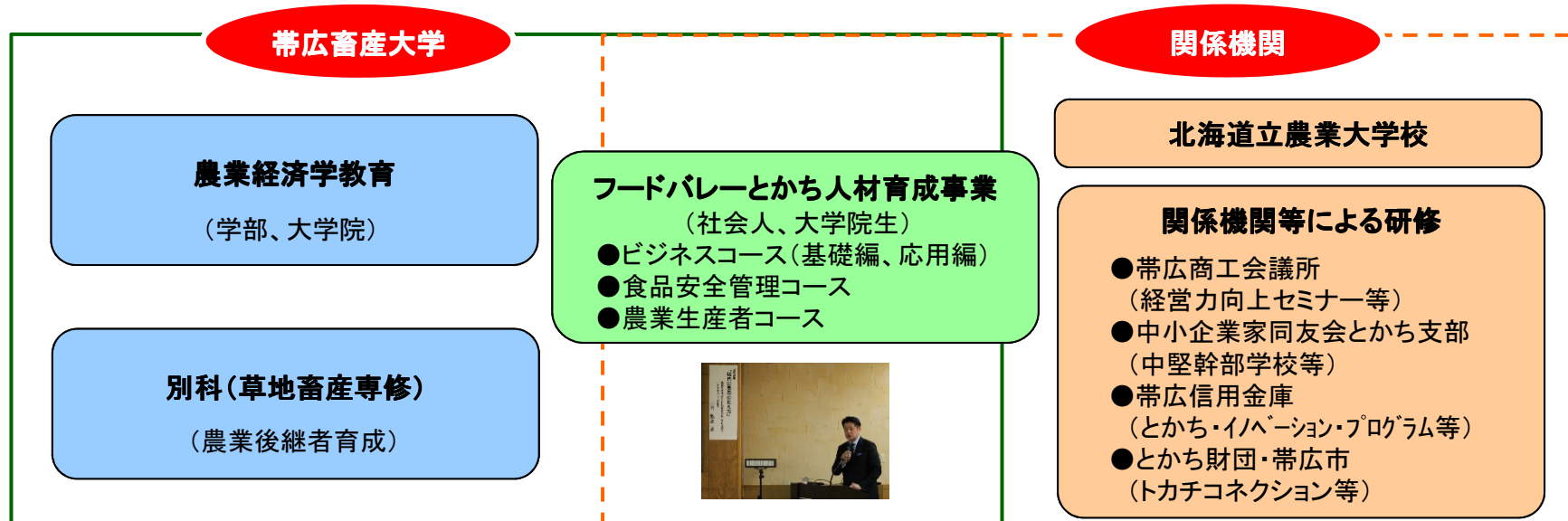
(7) 中長期的な検討項目 アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成

現状と課題

- 食・農関連産業は、人口減少、地球温暖化、グローバル競争などの**環境変化**の中、**中長期的な成長が期待**
- 先進的な取り組みにより高収益を上げる農業者が全国的に増加し、**大学の関連学部等の新設も相次ぐ**
- 十勝でも、**高い経営感覚を備え、高付加価値化や販路拡大等を先導するマネジメント人材**の育成が必要
- 大学・関係機関において多様な取り組みが進められているが、**相互の関連性については未整理**

取組状況

★目指す人材像の実現やスキルの習得に向け、管内の取り組みの整理や体系化が必要



IV 取り組みの方向性

(7) 中長期的な検討項目 アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成

取組方向

帯広畜産大学における農業経営教育についてのあり方検討と連動しながら、部会において、当面、**調査研究を実施**するとともに、今後の取り組みについて継続的に協議を行う。

調査研究の実施

アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成に関わる国内外の先進事例に関する調査や、管内における取組状況の整理などを行う。

<これまでの調査研究概要>

- ◆視察 三重大学(大学院イノベーション研究科)、徳島大学(地域産業人材育成事業)、佐賀大学(農業版MOTプログラム)、東京農業大学(国際バイオビジネス学科)、兵庫県(ひょうご農業MBA塾)、一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン(日本農業経営大学校) など
- ◆講師招聘 農都共生総合研究所(北海道アグリビジネスリーダー養成塾)
- ◆情報収集 学部等の新設事例(日本大学、吉備国際大学、龍谷大学、中村学園大学、立命館大学等) など
- ◆特徴
 - ①新設事例では、農業、食品加工、栄養、経済・経営、資源・環境、食文化等の**融合型カリキュラム**が多い。
 - ②教育内容として、マーケティングやマネジメントなど、**「経営」の視点**が重視されている。
 - ③フィールド実習、ケースメソッドの活用、事業計画の作成などの**実践的な教育**が行われている。
 - ④学生・受講者の人脈づくりや支援機関・専門家への橋渡しなど**人的ネットワークの形成**が重視されている。

IV 取り組みの方向性

(8) 今後に向けて

人材活躍の場・環境づくり

「地域ぐるみの人材育成」について継続的に検討しながら、新たなテーマとして、**大学と地元企業等による共同研究の促進など**、「人材の活躍の場・環境づくり」に向けた取り組みの方向性について、平成30年度から検討に着手する。

高等教育機関の充実

「地域ぐるみの人材育成」について取り組みの推進や検討のほか、「人材活躍の場・環境づくり」について検討を進める中で、**帯広市高等教育整備基金の活用も視野**に、高等教育機関の整備・拡充につながる様々な可能性について多角的に検討する。